

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済については、4月は消費税率引上げに伴い弱い動きがみられたものの、全体として緩やかな回復基調となりました。

海外旅行の動向は、アジアを中心とした外交問題、情勢不安や円安基調などの影響が依然として残りましたが、個人消費の持ち直しや、平成26年3月30日からの羽田空港国際線発着枠増加などがプラス要因となり、堅調に推移しました。当第2四半期連結累計期間の日本人出国者数（日本政府観光局推計値）は、約832万人（前期比2.8%減）となる見込みです。国内旅行の動向は、LCCの浸透や路線拡充による利便性の向上、主要観光地である沖縄・北海道旅行需要の高まりなどを背景に順調に推移しました。訪日外国人旅行の動向につきましては、タイなど東南アジア諸国の査証条件緩和や国からの訪日客が引き続き増加し、中国からの旅行需要も大幅に回復するなど好調に推移しました。同期間の訪日外国人数（同推計値）は、約581万人（同28.7%増）の見込みです。

このような経営環境の中で、当社グループでは、「安全」と「安心」、「サービス」と「品質」の向上に努めつつ、日本国内及び海外での事業を拡大していくために、オリジナリティ溢れる各種の施策を展開いたしました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### (旅行事業)

日本発の海外旅行事業について、新たなサービス施策として開始しました自由旅行時の安心を提供する現地での人的サポート「旅先コンシェルジュ」や「レストラン代行予約」等において、サービス拠点や対象を拡大するなど、当社の礎であります自由旅行の強化を実施いたしました。独自の旅行商品としましては、特別アメニティ等を設置した「ドラえもんルーム（ハワイ）」に宿泊する特別企画や、ご好評いただいております「サグラダファミリア（スペイン）」に加え、「バチカン美術館・システィーナ礼拝堂（バチカン市国）」など人気施設の貸切鑑賞プランを組み入れた商品を拡充して販売を開始いたしました。そのほか、学生の海外旅行需要を高める「出世払いキャンペーン」や「ワンコインオプションツアー」など特別施策も実施いたしました。また、平成26年3月30日の羽田空港国際線発着枠増加に伴う新コースの造成や各地区発着チャーター便の積極活用など、各種需要喚起に取り組みました。

販売チャンネルにつきましては、イオンタウン長野三輪（長野）、イオンモール和歌山（和歌山）、くずはモール（大阪）など全国的にショッピングセンターを中心に新たな営業拠点を設けたほか、首都圏未進出エリアである笹塚（東京）や武蔵小杉（神奈川）への出店に加え、繁忙期の需要に応じた機動的な期間出店も実施するなど、生産効率を重視した店舗網の拡充を行いました。

一方、インターネットを利用した取り組みとしましては、「航空券＋ホテル」サイトにおいて、オプションツアーや送迎手配をパソコン・スマートフォンともに同時予約が可能になるよう改修いたしました。また、LINEなどSNSを活用した商品配信の強化も実施し、お客様との接点拡大、更なる利便性向上を図りました。国内宿泊予約サイト「スマ宿」においては、引き続き契約施設数や利用者数の増加に努めてまいりました。

団体旅行につきましては、大型団体旅行（企業の報奨旅行・各種イベント・修学旅行）の受注が一層増加したほか、ソチオリンピック応援ツアーの取り組みなども奏功し、好調に推移いたしました。法人旅行（企業出張）においては、包括契約を推進するなど取引先企業の出張需要が回復基調となり、堅調に推移いたしました。

そのほか、より内容の充実したご滞在プラン（観光内容やホテルグレードなど）を意識した高付加価値商品のプロモーションや販売促進も寄与し、観光庁の取りまとめる主要旅行業者の海外旅行取扱額において確実にシェアを上げることができました。

高い成長率を継続しております国内旅行事業につきましては、石垣島ナイトサファリなど沖縄離島の特別企画の実施やLCCを利用したコースの拡充を行いました。また、千葉や埼玉など新たな発着地を増設したバスツアーの拡販も図り、引き続き好調に推移いたしました。

海外における旅行事業は、現地発の旅行手配業務（海外アウトバウンド業務）、そして日本及び各国からのお客様の受入業務（海外インバウンド業務）の両面にわたって、積極的に施策を繰り広げました。海外アウトバウンド業務につきましては、東南アジアで促進している多店舗展開において、タイ・バンコクは14拠点、インドネシア・ジャカルタを中心に10拠点へと拡大するとともに、現地のお客様向けプロモーション活動を一層強化し、認知度向上も図っております。また、流通網・集客力の強化に向け、インドネシア大手通信企業と旅行事業で業務提携契約（代理店契約）を締結いたしました。そのほか、クロアチアやギリシャなど未進出国への拠点展開も積極的に進めるなど、海外の営業拠点網は、56カ国、117都市、169拠点（平成26年4月末時点）となりました。そして、39カ国41サイトで展開している各国における現地のお客様を対象としたオンライン予約サイトについても、パッケージツアーや「航空券+ホテル」サイトのサービスを開始するなど、海外アウトバウンド業務はアジア地域を中心に順調に拡大しております。並行して強化を図っております訪日旅行事業としましては、市場が急成長しているタイからの受客に注力したほか、各国の企業インセンティブ旅行の受け入れも行うなど、海外拠点との連携を強化して事業拡大に努めてまいりました。

海外インバウンド業務につきましては、独自の商品として、当社海外駐在員が自ら観光地やホテルなどへ足を運んで企画した「産地直送商品」を拡充いたしました。また、ハワイの現地ホテルの宿泊手続きにおいて、当社現地ラウンジからチェックイン・チェックアウトを直接可能にするなどサービス向上に努めてまいりました。そのほか、当社グループの海外拠点が有するサービスや設備を、他の旅行会社にもご利用いただけるよう、ホールセール営業活動である「BtoB」事業の強化を行い、順調に推移しております。さらに、海外拠点間の送受客として、ロシアの支店がウラジオストック発のグアム行きチャーター便を販売し、グアム支店が受客する事業展開も順調な集客状況となっております。

以上のような各種施策を展開した結果、当第2四半期連結累計期間における旅行事業は、売上高2,242億60百万円（前年同期比111.7%）となり、営業利益につきましては、39億77百万円（同109.2%）となりました。

#### （ホテル事業）

ホテル事業につきましては、各ホテルにおいて、サービス強化や喜んでいただける施策等、お客様満足や収益性向上に努めた結果、売上高27億89百万円（前年同期比131.5%）、営業利益1億93百万円（同756.5%）となり、増収増益を達成いたしました。

#### (テーマパーク事業)

テーマパーク事業を運営するハウステンボス株式会社は、オンリーワン・ナンバーワンの価値を持ったイベントに注力いたしました。大人気シリーズの「光の王国」においては「光のキューブ」が誕生、国内最多の650品種を取り揃えた「チューリップ祭」の開催など各イベントをスケールアップいたしました。また、参加体験型で楽しめる「仮面舞踏会カーニバル2014」の実施や、新たな取り組みとして本格的なエンターテインメントが楽しめる「MUSE HALL」、アドベンチャーパークにお子様楽しんでいただける「ふわふわランド」を新設いたしました。そのほか、初の場外展開イベントとして、「大阪城3Dマッピングスーパーイルミネーション」を実施し、多くのお客様で賑わいました。その結果、当第2四半期連結累計期間の入場者数は150万1千人（前年同期比116.2%）、売上高140億14百万円（前年同期比134.9%）、営業利益51億21百万円（同183.3%）となり、業績は好調に推移いたしました。

なお、当第2四半期連結累計期間におけるハウステンボス株式会社の単独業績（平成25年10月から平成26年3月まで）は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第2四半期 (自 平成24年10月1日 至 平成25年3月31日)	当第2四半期 (自 平成25年10月1日 至 平成26年3月31日)	前年同期比	対前年同期 増減額
入場者数 (うち、海外客数)	1,292千人 (63千人)	1,501千人 (102千人)	116.2% (162.0%)	209千人 (39千人)
売上高(取扱高)(注)	10,967	14,826	135.2%	3,859
営業利益	2,727	5,055	185.3%	2,328
経常利益	3,155	5,512	174.6%	2,357

(注) テナントの売上高(取扱高)を含みます。

#### (運輸事業)

国際チャーター専門会社のASIA ATLANTIC AIRLINES CO., LTD. は、平成25年8月に成田国際空港—バンコク・スワンナプーム空港線に初就航して以来、継続して同路線の運航を行い、安全運航・定時運航率の向上に努めました。その結果、売上高につきましては19億34百万円、営業損失5億52百万円（前年同期は営業損失3億26百万円）となりました。

#### (九州産交グループ)

九州産交グループでは、主力事業であるバス事業において、環境に配慮した新排出ガス規制に対応し、衝突被害軽減ブレーキシステムなどの安全装備を完備した新型バス車両を導入し、安全、安心で快適なバスの旅への取り組みを実施いたしました。その結果、売上高は128億29百万円（前年同期比103.4%）、燃料費高騰の影響により、営業利益は6億61百万円（同86.4%）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高2,526億34百万円（前年同期比112.5%）、営業利益83億81百万円（同138.4%）、経常利益96億41百万円（同122.9%）となり、売上高・経常利益は4期連続、営業利益は3期連続で過去最高を更新いたしました。また、四半期純利益におきましては、ハウステンボス株式会社の繰越欠損金が解消することにより税金費用が増加し、43億60百万円（同93.1%）となりました。

なお、金額はセグメント間取引を含めております。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、686億18百万円となり、前連結会計年度末に比べ71億91百万円増加しました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により資金は74億92百万円の増加（前第2四半期連結累計期間は21億67百万円の増加）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益（96億41百万円）により資金が増加し、一方で売上債権の増加（17億34百万円）、法人税等の支払（13億82百万円）により資金が減少したことによるものです。

また、前第2四半期連結累計期間の増加は主に、税金等調整前四半期純利益（79億18百万円）、仕入債務の増加（3億69百万円）により資金が増加し、一方で旅行前払金の増加（30億5百万円）、法人税等の支払（20億38百万円）、売上債権の増加（11億56百万円）により資金が減少したことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により資金は17億66百万円の増加（前第2四半期連結累計期間は50百万円の増加）となりました。これは主に、定期預金の払戻による収入（163億57百万円）、有価証券の償還による収入（26億円）により資金が増加し、一方で定期預金の預入による支出（105億6百万円）、有価証券の取得による支出（40億円）、有形及び無形固定資産の取得による支出（32億75百万円）により資金が減少したことによるものです。

また、前第2四半期連結累計期間の増加は主に、定期預金の払戻による収入（250億67百万円）、有価証券の償還による収入（4億86百万円）により資金が増加し、一方で定期預金の預入による支出（199億14百万円）、有形及び無形固定資産の取得による支出（40億52百万円）、関係会社株式の取得（13億25百万円）により資金が減少したことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により資金は25億63百万円の減少（前第2四半期連結累計期間は28億74百万円の減少）となりました。これは主に、借入金の返済による支出（76億23百万円）、配当金の支払（11億2百万円）により資金が減少し、一方で借入れによる収入（64億70百万円）により資金が増加したことによるものです。

また、前第2四半期連結累計期間の減少は主に、借入金の返済による支出（26億44百万円）、配当金の支払（11億2百万円）によるものです。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における資金の残高は、前連結会計年度末に比べ71億91百万円増加した686億18百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。